

「別嬪」と「醜女」



「べっぴん」という言葉は古く江戸時代から使われてきた言葉で、現代では美人や美女を意味していますが、当時は「別格な品物＝特別に良い品物」に対して使っていた造語で「別品」と書いていたそうです。後に現在のように人に対して、優れた人という意味合いで使い、品物から美人を形容する言葉になり「別嬪」と表記するようになったということです。この言葉の発祥地は、江戸末期に豊橋市吉田宿で割烹の店主が、新メニューの鰻を宣伝する際に友人のアドバイスで「別品」とだけ看板に掲げて大評判となり、江戸まで名が伝わったとのこと。一方、醜女＝ブスは漢字で書くと「附子」。トリカブトの塊根を意味し、漢方では鎮痛、強心剤として用いますが、誤って口に含むと神経麻痺で無表情となり、その無表情を「附子」と言い、醜い顔を「ブス」と言うようになったそうです。

もう一説には、着物を仕立て縫いする時に針に、糸を通して糸よりを戻すとき糸をピンと張って指先で弾きます。上物の糸は「ピン」と良い音を立てますが、悪素材の糸は「ブス」と切れてしまうそうです。その糸音から「別嬪」と「ブス」と言われる説もあるそうです。

どちらの場合も、女性を品定めする言葉で良い感じはしません。

しかし、日本語っておもしろいですね。

